「ラチエン通り」は国道1号の松林中学校入口交差点から、国道134号の菱沼海岸交差点（元パシフィックホテル茅ヶ崎横）まで延びる約2㌔の道です。昭和の初め、松が丘に別荘を構えたドイツ人貿易商ルドルフ・ラチエンにちなんで、その名が付けられています。ラチエンが120本の桜を植えたことから、この道は「桜道」ともいわれていました。

現在は、桜道の名の元になった桜も姿を消し、その名は若松町交差点で交わる東西の道に変わり、バス停の名に名残をとどめています。また、閑静な住宅街に松並木が残っており、通りに沿う「松が丘緑地」は中泉別荘の一部です。

海岸へ向かって行くと、茅ヶ崎のシンボル「烏帽子岩」が正面に見えるので撮影スポットとしても有名です。この通りにまつわる話として、江戸時代の初期に茅ヶ崎村と小和田村が漁場をめぐって争い、烏帽子岩と通りを結ぶ線で漁場を分割したという記録（幕府評定所の裁定）が残っています。

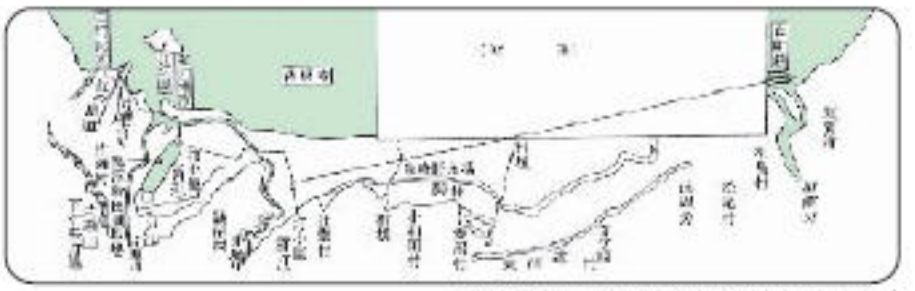
【生涯学習課文化財保護担当】

今回の発見！

ラチエン通りから海岸へ

①佐々木卯之助の碑

東海岸北五丁目の鉄砲道と旧道との分岐点に江戸時代の鉄砲場役人だった佐々木卯之助の追悼記念碑が建っています。



鉄砲場絵図（茅ヶ崎市史４通史編より引用）

②鉄砲道

享保13（1728）年、江戸幕府は大岡の演習場として片瀬村（藤沢市）から柳島村までの海岸一帯に鉄砲場を設置しました。市では、「みちの愛称」のひとつとして柳島から松下政経塾前までの道を鉄砲道と呼んでいますが、本来は南湖の六道の辻付近から富士見町の平和学園付近までの東西を貫く鉄砲場に接する道を呼んでいたようです。

③開高健記念館

作家の開高健は、昭和49（1974）年にこの地に移り住み、平成元（1989）年に亡くなるまでここで活動を展開していました。その業績や人となりに触れてもらうことを目的に、邸宅を記念館として平成15（2003）年4月に開設しました。開館日は毎週金・土曜日と休日。

④茅ヶ崎ゴルフ倶楽部

開設当時は、市営のゴルフ場でしたが、昭和52（1977）年に観光日本へ移管されました。

⑥湘南海岸砂防林

飛砂や潮風の害から海岸地帯の住宅や道路交通を守るのが役目です。現在、藤沢市鵠沼海岸から中部大磯町東町まで、延長11.4㌔、平均幅80㍍の広さを持つ、良好な海岸緑地に成長しています。

ラチエン通りから見た烏帽子岩

海岸から見た烏帽子岩

⑤烏帽子岩

茅ヶ崎海岸の沖合1.2㌔、大小30数個の小島が集まった姥島の中央に突き出た高さ15㍍の岩。平安時代の貴族がかぶっていた烏帽子に似ているところからそのように呼ばれています。ラチエン通りから海岸に向かって歩くと、防砂林の間の道いっぱいに烏帽子岩が大きく姿を現しますが、砂浜に出ると小さく見えます。

ルドルフ・ラチエン（1881～1947）

1881年ドイツに生まれ、1902年炭酸水販売会社の社員として来日。日本人と結婚し、東京青山に貿易商「ラチエン商会」を開業。ラチエンが所有していた用地は1万5000坪ほどで、別荘を建て、その周辺は防風林や畑にしました。

ラチエンは親日家で、自宅では和食を好み、和服で過ごし、庭には大きな池を作っていました。別荘前の柵と垣根の野バラが見事だったそうです。

別荘跡には、その後、ＴＯＴＯの社員寮などが建てられ、2003年に分譲されたマンションは、かつての別荘の庭園跡地と言われています。